

平成 29（2017）年度
おおあらいちょうないいせきちょうさほうこくしょ
大洗町内遺跡調査報告書

髭釜遺跡第 17 次調査
髭釜遺跡第 18 次調査
祝町向洲台場跡第 2 次調査
千天遺跡第 3 次調査

2024

大 洗 町 教 育 委 員 会

平成 2 9（2 0 1 7）年度
大洗町内遺跡調査報告書

髭釜遺跡第 17 次調査
髭釜遺跡第 18 次調査
祝町向洲台場跡第 2 次調査
千天遺跡第 3 次調査

2 0 2 4

大 洗 町 教 育 委 員 会

調査報告書の刊行に際して

大洗町は茨城県太平洋岸のほぼ中央に位置し、東は鹿島灘、北は那須茶臼岳を源とする那珂川、西は笠間町国見山を源とする涸沼川や涸沼を臨む、自然環境に恵まれた地であります。

自然の恵みを享受したこの地では、原始古代より人々の生活が営まれ、彼らが残してきた遺跡が多く発見されております。これらの遺跡の一つ一つは大洗町の歩んできた歴史を伝える大切な財産であり、町の誇りでもあります。我々はこれらの遺跡を大切に保護し、後世へと伝えていかなければなりません。

そのような遺跡の中でも、中心的な磯浜古墳群（日下ヶ塚古墳・車塚古墳・姫塚古墳など）が国の史跡として指定されたのは、令和2年の3月のことです。現在大洗町では、史跡磯浜古墳群を中心に据え、保存活用計画の策定や用地の公有化、史跡整備へ向けた取り組みを加速させています。

今回扱った髭釜遺跡や祝町向洲台場跡・千天遺跡などは、大洗町の歴史を紐解く上で、かけがえのない遺跡群であり、大洗町の歴史的な経過の一端が今回の報告を通して、浮かび上がるのではないのでしょうか。

このような特筆される遺跡を後世に伝えていくため、大洗町では、事業主の方に御理解と御協力をいただき、開発に先立ち遺跡を破壊しないような計画の変更を勧めております。ただ、やむを得ない場合には、事前に記録保存の策を講じるようにしております。今回も施主や施工する事業主の方々には、格別の御配慮をいただき、試掘確認調査が実施できましたこと、厚くお礼申し上げます。

この本を刊行することにより、このたび明らかとなったこの町の歩みの一端が、広く将来を担う子どもたちや町民へ周知され、学校教育や生涯学習の中で普及・活用されることを期待しております。

最後に試掘確認調査に際し、御協力くださいました参加者の皆様や茨城県教育庁文化課の方々に心から感謝申し上げます。

令和6年3月

大洗町教育委員会

教育長 長谷川 馨

例 言

- 1 本書は、平成29(2017)年度の文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金、及び令和5(2023)年度の文化庁の国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金を受けて、大洗町教育委員会が実施した大洗町内遺跡の調査報告書である。
- 2 報告する遺跡数は4遺跡であり、次数は以下の通りである。
髭釜遺跡第17次調査・髭釜遺跡第18次調査・祝町向洲台場跡第2次調査・千天遺跡第3次調査
- 3 調査に伴う試掘確認調査・整理報告書作成作業期間は、下記の通りである。
試掘確認調査 平成29年4月1日～平成30年3月31日（平成29年度）
整理報告書作成作業 令和5年4月1日～令和6年3月31日（令和5年度）
- 4 平成29・令和5年度の調査組織は、以下の通りである。
平成29年度
大洗町教育委員会教育長 飯島郁郎
大洗町生涯学習課長 深作和利
大洗町生涯学習課文化振興係長 蓼沼香未由
大洗町生涯学習課文化振興係主事 佐藤穂高
令和5年度
大洗町教育委員会教育長 長谷川 馨
大洗町教育委員会教育次長 深作和利
大洗町生涯学習課長 磯崎宗久
大洗町生涯学習課文化財係長 蓼沼香未由
大洗町生涯学習課文化財係主任 栗原敬太
- 5 調査の参加者は、以下の通りである。
髭釜遺跡 第17次調査 担当：蓼沼香未由 重機：愛功建設株式会社 鬼澤正俊
生涯学習課員：長谷川 満・額賀真宏・大森 剛・根本英昭・江橋宏祐・小島良浩
作業員：鈴木浩子・市毛祐一
髭釜遺跡 第18次調査 担当：蓼沼香未由 重機：愛功建設株式会社 鬼澤正俊
作業員：市毛祐一・榎澤由紀江
祝町向洲台場跡第2次調査 担当：蓼沼香未由 重機：愛功建設株式会社 鬼澤正俊
作業員：市毛祐一
千天遺跡 第3次調査 担当：蓼沼香未由 作業員：市毛祐一
- 6 整理報告書作成作業の参加者は、以下の通りである。
蓼沼香未由 編集・原稿執筆・遺構図トレース・遺物図トレース・遺物写真撮影
おかだ利美 遺構図トレース・遺構遺物写真加工
榎澤由紀江 遺物拓影図
- 7 調査、及び整理報告書作成作業の過程で、下記の方々・機関のご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。
小松崎 梢・中山幹夫・鷹見文昭
茨城県教育庁文化課・有限会社エス・プランナー第二設計室（木次谷良子）・株式会社大貫工務店住宅事業部

(白田洋一郎・吉沼恵美)・社会福祉法人金剛福祉会(櫻井 清)・中央技術株式会社本社(横山善樹)・株式会社根本建築設計事務所(阿久津裕司)・パナホーム株式会社茨城支社東部営業設計センター茨城設計部第一設計センター(長岐史郎)・株式会社富士住建

- 8 報告した考古資料、及び作成図面や写真などの記録類一式は、大洗町教育委員会生涯学習課文化財係(東茨城郡大洗町磯浜町6881-88)が所管し、一括して大洗町埋蔵文化財整理作業棟(同町大貫町1212-32)で保管している。

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、以下の通りであり、各図ともスケールを付してある。
遺跡内開発区域図：1/10,000
開発区域内調査区位置図：1/500
トレンチ平(断)面図：1/100
出土遺物図：1/3
- 2 各遺構図に付した方位は、磁北を用いている。
- 3 各遺構図に網掛け表現を用いたが、その意味は各図に添えた凡例を参照されたい。
- 4 開発区域内調査区位置図には、新築住宅を赤線、合併浄化槽を緑線、雨水浸透枳を青線で、それぞれ示した。
- 5 遺構の覆土から出土しながらも、調査時点では、ドットを落とさずに一括して取り上げた資料が存在する。そうした資料を報告する場合には、「01・02・03…」のように、「0」番から始まる番号を付した。
- 6 遺物の内、須恵器については、断面を黒塗で表現した。
- 7 本文中で(人名 刊行年)で明記した引用・出典文献と共に、原稿執筆時に参考とした文献を加えた「引用・出典・参考文献」一覧を巻末に収めてある。
- 8 遺跡内開発区域図に使用した地図は、大洗町都市建設課が平成28年3月に発行した『都市計画図 1/2,500』(平成26年12月撮影、平成27年9月現調)を用いている。

本文目次

調査報告書の刊行に際して

例 言

凡 例

本文目次

挿図目次

写真目次

付表目次

第 1 章	調査の概要	1
第 2 章	髭釜遺跡第17次調査	3
第 3 章	髭釜遺跡第18次調査	7
第 4 章	祝町向洲台場跡第 2 次調査	10
第 5 章	千天遺跡第 3 次調査	13

引用・出典・参考文献

抄 録

挿図目次

第1図	平成29(2017)年度調査遺跡分布図	2
第2図	髭釜遺跡内開発区域図	3
第3図	髭釜遺跡開発区域内調査区位置図	3
第4図	髭釜遺跡第1・2号トレンチ平断面図	4
第5図	髭釜遺跡第1・3号竪穴建物跡出土遺物図	5
第6図	髭釜遺跡内開発区域図	7
第7図	髭釜遺跡開発区域内調査区位置図	7
第8図	髭釜遺跡第1・2号トレンチ平断面図	8
第9図	髭釜遺跡第2号トレンチ出土遺物図	8
第10図	祝町向洲台場跡内開発区域図	10
第11図	祝町向洲台場跡開発区域内調査区位置図	10
第12図	祝町向洲台場跡第1・2号トレンチ平面図	11
第13図	千天遺跡内開発区域図	13
第14図	千天遺跡開発区域内調査区位置図	13
第15図	千天遺跡第1号トレンチ平面図	14
第16図	千天遺跡第1号トレンチ出土遺物図	15

写真目次

写真1	髭釜遺跡調査区全景（北東から撮影）	4
写真2	髭釜遺跡第1号トレンチ全景（東から撮影）	5
写真3	髭釜遺跡第2号トレンチ全景（東から撮影）	5
写真4	髭釜遺跡第1・3号竪穴建物跡出土遺物	5
写真5	髭釜遺跡調査区域全景（東から撮影）	8
写真6	髭釜遺跡第2号トレンチ出土遺物	8
写真7	髭釜遺跡第1号トレンチ全景（北東から撮影）	9
写真8	髭釜遺跡第2号トレンチ全景（北東から撮影）	9
写真9	祝町向洲台場跡調査区全景（西から撮影）	10
写真10	祝町向洲台場跡第1号トレンチ全景（東から撮影）	11
写真11	祝町向洲台場跡第2号トレンチ全景（西から撮影）	11
写真12	千天遺跡調査区全景（北西から撮影）	14
写真13	千天遺跡第1号トレンチ全景（東から撮影）	14
写真14	千天遺跡第1号トレンチ出土遺物	15
写真15	千天遺跡第1号ピット完掘状態（南東から撮影）	15

付表目次

第1表	平成29(2017)年度調査遺跡一覧表	1
-----	---------------------	---

第1章 調査の概要

大洗町教育委員会生涯学習課文化振興係が主体となり、平成29(2017)年度中に実施した、大洗町内における埋蔵文化財の調査は、第1表・第1図の通り、総数9件である。

開発区域は、北部の祝町・磯浜町・桜道から、大貫町・南部の夏海地区まで全町的に分散している。107登録されている遺跡の分布に地区的な粗密は見られず（大洗町教育委員会2023）、開発区域においても分散した結果となっている。

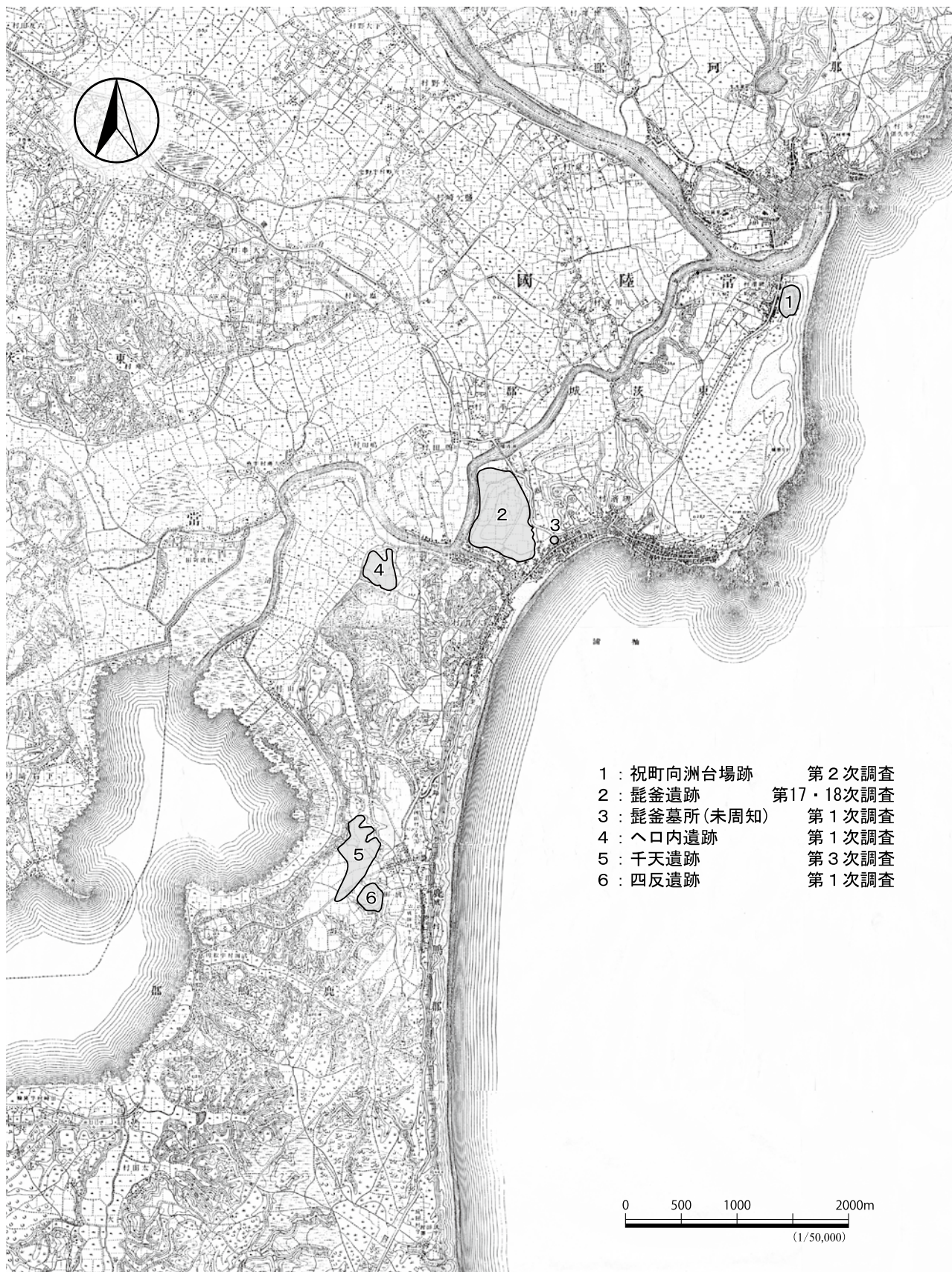
今回未周知のため報告はしていないが、髭釜墓所の試掘・発掘調査では、砂に埋まった近世から近代にかけての箱式木棺墓4基や土壙墓8基などが検出されており、木棺に伴う鉄釘の配列がみられた。12体分ほどが出土した人骨は坐棺の姿勢を維持したものもみられ、金属製の銭貨や煙管なども発見されている。磯浜町髭釜における江戸時代から明治時代頃の埋葬様式を示す内容で、遺体の形質や埋葬方法、副葬品の内容などを分析することで、近世近代の地域史の一端を解明する貴重な資料と言える。

平成29年3月の四反遺跡第1次試掘調査や同年11月のへろ内遺跡第1次試掘調査では、共に遺構が検出され、破壊が及ぶ内容であったため、記録保存のための発掘調査を実施しており、すでに発掘調査報告書を刊行している（蓼沼・斎藤2018、早川編2018）。調査の成果は両書を参照されたい。

今回報告する周知内に位置する残りの髭釜遺跡第17次・18次、祝町向洲台場跡第2次、千天遺跡第3次調査の4件は、幼稚園の分園舎を建設する髭釜遺跡17次調査を除き、個人居住用住宅の建設に伴う調査事例である。

第1表 平成29(2017)年度調査遺跡一覧表

番号	遺跡名 次数	調査内容	期 日 間 数	遺 構	遺 物	取扱結果	報 告
1	未周知 髭釜墓所 1次	試掘調査	2017. 6. 15～6. 23 4日間	土壙墓 5	人骨(5片)・磁器等	発掘調査	未報告
2	未周知 髭釜墓所 1次	発掘調査	2017. 6. 27～7. 19 12日間	近世近代箱式木 棺墓4土壙墓8	人骨(12体)・銭貨・陶磁 器・ガラス瓶・鉄釘等	工事着手	未報告
3	へろ内遺跡 1次	試掘調査	2017. 11. 6～11. 21 5日間	堅穴建物3、 堀1、溝1	土師器坏(2)・須恵器坏(1) ・須恵器甕(1)等	発掘調査	早川編 2018
4	髭釜遺跡 17次	試掘調査	2017. 11. 16～11. 24 4日間	堅穴建物3、 溝1・ピット2	弥生土器(1)・土師器坏(1) ・甕(2)・須恵器盤(1)	工事立会	本報告
5	四反遺跡 1次	発掘調査	2017. 11. 20～12. 11 13日間	堅穴建物4、 溝1、ピット1	弥生土器、土師器鉢・坏・ 甕、須恵器坏・蓋・甑、灰釉 陶器壺、土師質土器、磨石・ 浮子	工事着手	蓼沼・斎 藤 2018
6	髭釜遺跡 18次	試掘調査	2017. 11. 28～12. 4 4日間	ピット2	須恵器坏(1)・瓦質土器(1)	慎重工事	本報告
7	祝町向洲台場跡 2次	試掘調査	2017. 11. 28～12. 5 4日間	—	—	慎重工事	本報告
8	千天遺跡 3次	試掘調査	2018. 1. 29～ 2. 1 2日間	—	弥生土器(2)、土師器甕(1)	慎重工事	本報告
9	へろ内遺跡 1次	発掘調査	2018. 3. 5～4. 17 26日間	堅穴建物4、溝2 掘建柱建物1、 遺物包含層1、 地点貝塚3、土 坑11、ピット6	弥生土器、土師器坏・高坏 ・甕・甑、須恵器坏・甕、貝 類遺体(ダンベイキサゴ・ チョウセンハマグリなど)、 石鏃、磨石・敲石、管状土鏝	工事着手	早川編 2018



第1図 平成29(2017)年度調査遺跡分布図

明治18年測量 大日本帝国参謀本部陸軍部測量局作成二万分之一迅速測図「磯浜村」・「下石崎村」を加工

第2章 髭釜遺跡第17次調査

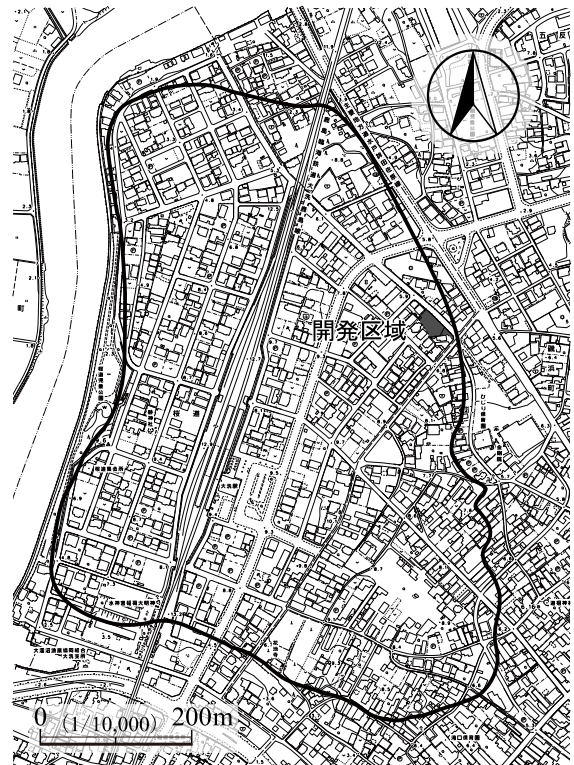
調査経緯 平成29年8月頃、周知の埋蔵文化財包蔵地・08309022番の髭釜遺跡の範囲内で、社会福祉法人金剛福祉会（櫻井清理事長）により、ひじり保育園の分園の新築工事が計画されたため、文化財保護法第93条第1項の規定に従い、平成29年10月25日付で、茨城県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。

開発区域 標高約9.1～9.3mの低台地縁辺に位置し、髭釜遺跡の東端部に該当する。地番は桜道186番である。東西幅約27.0m×南北の奥行が約37.5mの、北西に向けて幅が減じる略長台形を呈し、面積は、807.27㎡である。

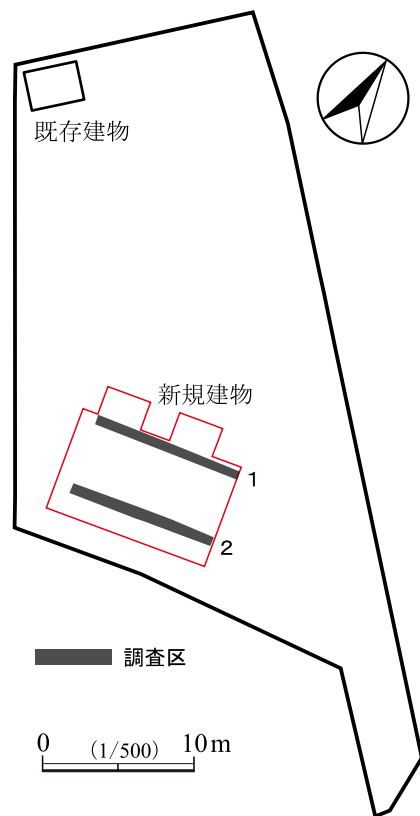
現況は遊具を置いた運動場で、南東側の進入路を利用して3.0m程度低い町道8-1237号線や8-1225号線と接道している。敷地の南側に寄った位置に、東西約10.92m×南北約9.1mの92.75㎡の木造2階建の園舎を新築する予定である。1階部分南側や東側には、デッキを持つ。

南東側敷地外、町道8-1237号線上のマンホール天端が工事用BM±0mで、標高は6.163mである。建物の設計GLは、これより3.1m上がり、標高約9.263mである。建設予定地の現況地盤は9.116～9.243mであるから、2.0～14.7cm盛土をして設計GLを確保することになる。盛土は碎石を敷き、その上面に高さ64cmのコンクリート基礎を建て、さらに木造の建物を建設する。以上より、建物の地下に遺構が埋没した場合、30cmの保護層を確保しようとする、遺構の検出上面は、標高約8.963m以下である必要がある。

調査区域 試掘調査は、平成29年11月16・21・



第2図 髭釜遺跡内開発区域図



第3図 開発区域内調査区位置図

22・24日の4日間、実施した。園舎予定地の直下に略東西軸の調査区2本（第1・2号トレンチ）を、約4.1mの間隔を空けて設定して調査にあたった。

第1号トレンチ 分園舎の北側に設定した。平面規模は、東西長約10.2m×幅約65cmで、面積は約6.63㎡である。トレンチ内の表土—約40～47cmの深さからは、西から東に向けて、第1号竪穴建物跡、第1号ピット、第1号溝跡の合計3つの遺構を検出した。



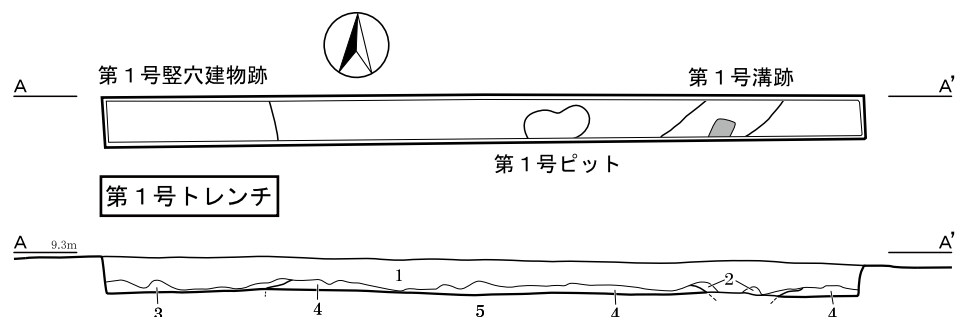
写真1 調査区全景（北東から撮影）

第1号竪穴建物跡 標高約8.77mの深さから、東壁の立ち上がりが検出された。西側は調査区外であるが、把握できた東西規模は約2.45mである。

出土遺物 建物の覆土であるA-A'断面3層中からは、4点の遺物が出土した。細片を除く、第5図01・02の2点を図示した。

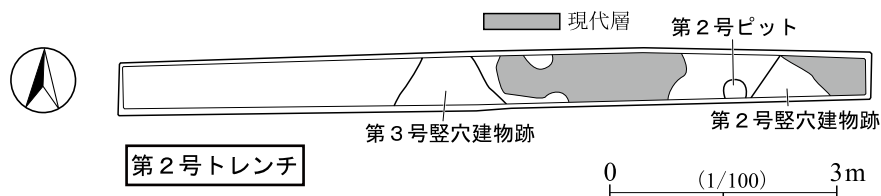
01は、須恵器有台盤の底部～高台部の大型の破片である。胎土はやや丸みのある白色透明粒子や白色不透明粒子が主

体で、石綿骨針などを
含み、木葉下窯跡
群産とみられる。底
面は比較的平坦で、
底部外面は緩やかに
立ち上がる。現存直
径約15.0cm、現存器
高約2.8cm、高台径
約10.0cm、高台高約
1.2cmである。底部内
外面をロクロナデで
成形し、底面を回転
ヘラ削りした後、台
部を回転ナデで接着
させている。底面に



第1号トレンチ堆積土層

- 1：白色砂層（上層：白色砂層で水道塩ビ管含む、下層：水平堆積する砂利層、礫集中部など、医院造成～廃棄・埋立土、現代層）
- 2：黒褐色土（しまり強、5mm前後のローム粒子を少量含む、遺物無、第1号溝跡覆土）
- 3：暗褐色土（しまり強、2～10mmのロームブロック中量・古代遺物含む、第1号竪穴建物跡覆土）
- 4：褐色土（しまり有、粘性有、ローム粒子極多量含む、遺物無、地山への漸移層）
- 5：褐色土（粘性有、地山の関東ローム層）



第4図 第1・2号トレンチ平断面図

ヘラ記号を持つ。色調は内面が灰色、外面がやや赤みのある灰色である。

02は、土師器甕の胴部破片である。厚さは、3.5～5.0mmと大変薄い。外面は煤を受け黒色、内面は黒褐色の色調である。調整は外面がナデ、内面が横位のヘラナデを施す。胎土には1mmに満たない白色透明粒子や白色不透明粒子を多量含んでおり、灰色不透明粒子も僅かに含まれた。

帰属時期 出土遺物が少なく不明瞭ではあるが、奈良時代後半～平安時代前期に帰属する建物とみられる。

第1号ピット 標高約8.737mから検出した。南側は調査区外であるが、長軸約90cmの不整形を呈する。出土遺物は無く、時期は不明である。

第1号溝跡 標高約8.735m以下に埋没する。ほぼ北東－南西軸で走行し、長さ1.6m以上、幅約70cm、検土杖を用いた確認面からの深さは約40cmである。水道管と重複する位置から検出したため、覆土の一部が破壊を受けている。出土遺物は無く、帰属時期は不明である。

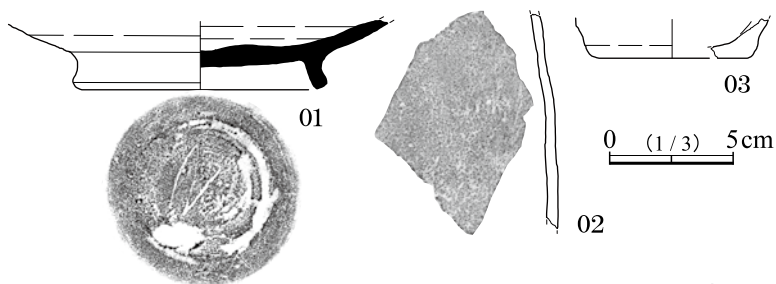
第2号トレンチ 分園舎予定地の南側に設定した。平面規模は、東西長約10.1m×幅約75cmで、面積は約7.58m²である。大きく東端部と中央部に現代の改変が加えられ、その間の表土－37～59cmの深さから遺構が検出された。西から東に向けて、第3号竪穴建物跡、第2号ピット、第2号竪穴建物跡が並ぶ。



写真2 第1号トレンチ全景（東から撮影）



写真3 第2号トレンチ全景（東から撮影）



第5図 第1・3号竪穴建物跡出土遺物図



写真4 第1・3号竪穴建物跡出土遺物

第3号竪穴建物跡 標高約8.77mの深さから、直線的な北西壁と北東壁を検出した。規模は1.17m以上×1.24m以上であるが、全形は不明である。検土杖による床面までの壁高は約43cmである。

出土遺物 覆土からは、第5図03の土師器坏の底部片1点が出土した。復元底径5.9cm、現存器高1.6cmである。底面は欠損しており調整技法は明確ではない。胎土には、白色透明粒子細粒、白色不透明粒子細粒のほか、灰色粒子細粒を含む。色調は内外面とも赤褐色である。体部内外面ともロクロ成形の未調整である。平安時代に帰属するものとみられる。

第2号ピット 直径30cmの円形を呈する。遺物は出土せず、時期は不明であるが、近現代の掘り込みではない。

第2号竪穴建物跡 標高約8.59mの深さから、直線的な北西壁を検出した。検土杖による床面までの壁高は約35cmである。遺物は出土せず、明確な時代時期は不明であるが、竪穴建物を構築する中世以前に帰属するのは確かであろう。

取 扱 以上の第1・2号トレンチにおける試掘調査の結果、標高約8.59～8.77mの深さから、奈良・平安時代を中心とした竪穴建物跡3棟、時期不明の溝跡1条・ピット2基を検出した。新築建物の基礎底面の深さは、砕石直下の標高9.163mであり、遺構を検出した標高との間に、39.3～57.3cmの保護層が確保できることとなる。

この内容は、『埋蔵文化財として扱う範囲及び開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する基準』に照らして、厚さ30cm以上の保護層が確保でき、工事が埋蔵文化財を損壊しない範囲内で計画されているものの、中世以前に遡る複数の遺構が直下から検出されているため、現地で状況を確認する中で、基礎工事を実施する必要がある。

以上の結果を、平成29年11月28日付「埋蔵文化財取扱いに関する意見書」として取りまとめ、茨城県教育庁総務企画部文化課長に提出したところ、同年12月27日付文2573号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により、建物の基礎工事に際しては工事立会と判断された。これを受け、平成30年2月9・20日などに、町教育委員会文化財担当が工事の立会を行う中で、散水栓や樹木の除去作業など行った。樹木の除去に際しては、伐根せず、深い根をそのまま地中に残すなど、遺構への配慮を行った工法をとっている。最終的には、遺構は未検出に終り、そのまま分園舎の新築工事に進んでいった。

第3章 髭釜遺跡第18次調査

調査経緯 平成28年11月に開通した都市計画道路駅前海岸線（愛称：きらめき通り）に面する、磯浜町字松台堂1313番1が該当し、周知の埋蔵文化財包蔵地、髭釜遺跡の範囲内である。個人居住用住宅の新築工事が計画されたため、文化財保護法第93条第1項の規定に従い、平成29年11月22日付で、茨城県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。

開発区域 髭釜遺跡の南東部に位置する。北西－南東幅約22.6m×南北の奥行が約20.4mの略長方形を呈する。面積は、409㎡である。標高は、約9.518～9.628mで、現況はほぼ平坦である。敷地の南西側に寄った位置に、面積約155㎡の平屋建ての建物1棟（北西－南東軸約15.08m×北東－南西幅約10.28m）を新築する。公共の下水道に接続するため、合併浄化槽の埋設は行わない。

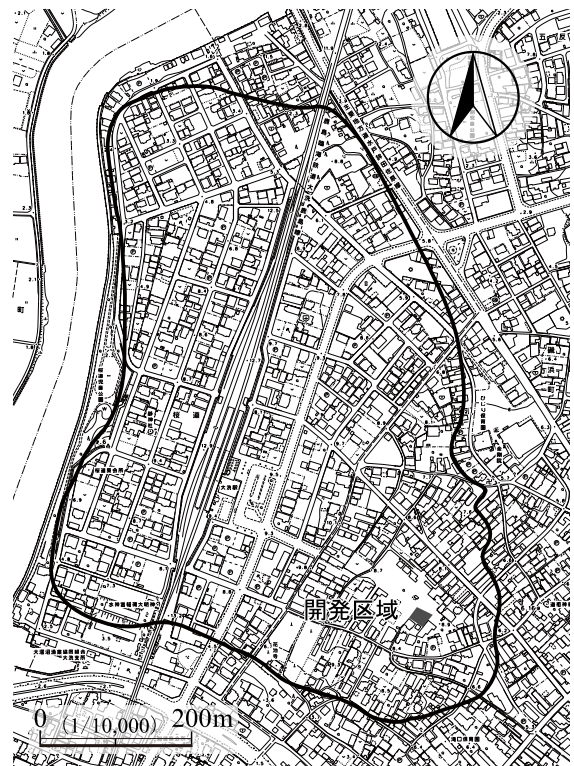
前面の歩道上の汚水マンホール天端にTBMが設定されており、基準は標高9.148mである。建物の設計GLは、これより45cm高い標高9.598mで、開発区域内のほとんどで、盛土をして地盤を確保することとなる。建物の基礎は布基礎で、設計GLよりも最も深い底面では約35cm掘削する9.248mに達することとなる。保護層30cmの底面は標高8.948mとなり、この高さ以上で遺構を検出した場合、取り扱いが必要となる。

調査区域 試掘調査は、平成29年11月28・30・12月1・4日の4日間、実施した。建物建築予定地の直下に略北東－南西軸の調査区2本（第1・2号トレンチ）を、約7.1mの間隔を空けて設定して調査にあたった。

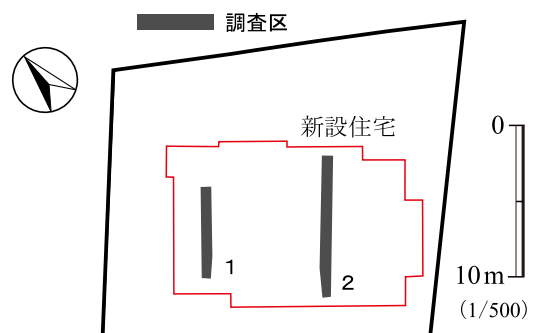
第1号トレンチ 住宅建設予定地の北西側に設定した。北東－南西軸約6.02m×幅約70cmの規模で、面積は約4.21㎡である。確認面の関東ローム層上面までの深さは約34～37cmで、第1層の旧耕作土がほとんどで、下位に第2層の関東ローム層への漸移層が堆積している。

確認面からは、近世以前とみられるピット2基（第1・2号ピット）を検出した。

第1号ピット トレンチの北東端、標高約9.187mの



第6図 髭釜遺跡内開発区域図



第7図 開発区域内調査区位置図

深さから検出した。直径78cm以上の円形の平面形態を持つが、ほとんどの範囲が調査区外に延びており、全形は不明である。検土杖による確認面からの深さは約40cmである。遺物は出土せず、時代時期は不明である。

第2号ピット トレンチの南西側、標高約9.224mの深さから検出した。直径約53cmの円形の平面形態を持つ。検土杖による確認面からの深さは約38cmである。遺物は出土せず、時代時期は不明である。

第2号トレンチ 住宅建設予定地の南東側に設定した。北東－南西軸約9.27m×幅約75cmの規模で、面積は約6.95㎡である。確認面の関東ローム層上面までの深さは約29～40cmで、第1層の旧耕作土が堆積する。確認面からは、北東側に東西に走行するごぼう耕作に伴うトレンチャー痕を検出したが、遺構は未検出であった。

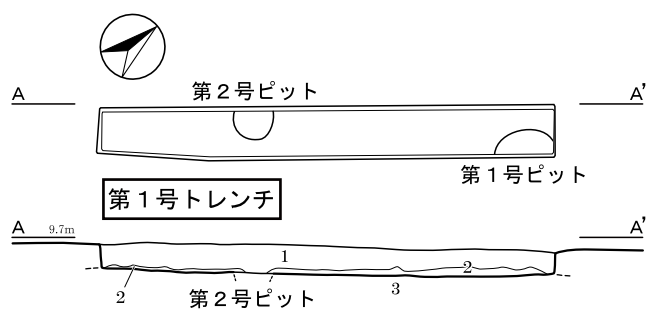
第1層中には、近世・近現代に帰属する瓦質土器片1、古代の須恵器坏片1が包含されていた。

出土遺物 01の須恵器口辺部破片は、復元した口径が約19.0cmと大型品であるため、有台坏とみられる。現存器高は約2.5cmである。胎土には、白色不透明粒子が多く、白色透明粒子や灰色粒子・石綿骨針を含み、木葉下窯跡群産の特徴を持つ。内外面とも灰色の色調で、ロクロ痕を残す。

取 扱 以上の第1・2号トレンチの調査成果より、標高約9.187～

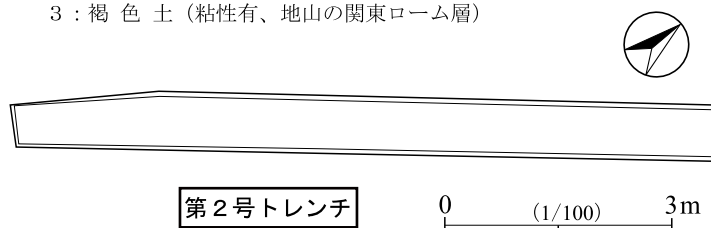


写真5 調査区全景（東から撮影）

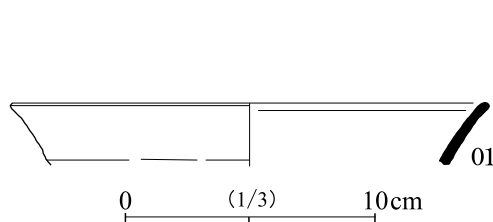


第1号トレンチ堆積土層

- 1：暗褐色土（しまり強、1～2mmロームブロック中量・ローム粒子中量含む、耕作土）
- 2：褐色土（しまり有・粘性有、ローム粒子極多量含む、関東ロームへの漸移層）
- 3：褐色土（粘性有、地山の関東ローム層）



第8図 第1・2号トレンチ平面図



第9図 第2号トレンチ出土遺物図



写真6 第2号トレンチ出土遺物

9.224mの高さから近世以前に遡るピット2基を検出したものの、時代時期の明確な遺構は検出されなかった。住宅の建築に伴う基礎の掘削は、最深部で標高約9.248mと、ピット上面とほぼ同様の深さに相当するものの、直接は遺構には達しないようである。

この内容は、『埋蔵文化財として扱う範囲及び開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する基準』に照らして、明確な中世以前の遺構は未検出であるため、積極的に埋蔵文化財として扱う対象とはならない。

以上の結果を、平成29年12月6日付「埋蔵文化財取扱いに関する意見書」として取りまとめ、茨城県教育庁総務企画部文化課長に提出したところ、同年同月18日付文2469号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により、建物の基礎工事にあたっては慎重に工事を進めるものと判断された。



写真7 第1号トレンチ全景（北東から撮影）



写真8 第2号トレンチ全景（北東から撮影）

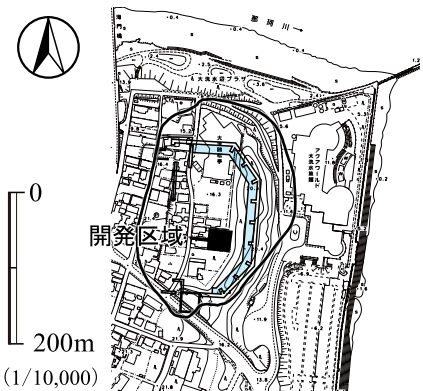
第4章 祝町向洲台場跡第2次調査

調査経緯 平成29年度中に、磯浜町字祝町8179番15・8179番17・8179番72の三筆から成る開発区域について、個人居住用専用住宅の新築工事が計画された。本予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「祝町向洲台場跡」に該当したため、文化財保護法第93条第1項の規定に従い、平成29年11月7日付で茨城県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。

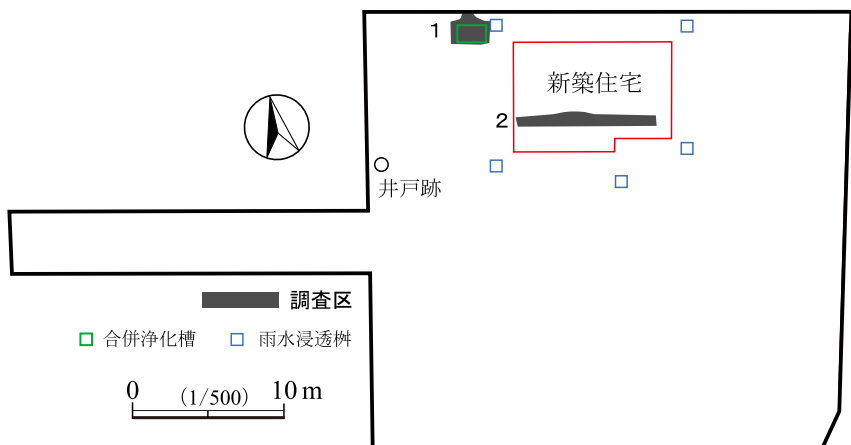
本予定地は、文久三(1863)～元治元(1864)年に築造された祝町向洲台場跡の土塁で囲まれた内庭部内の砲座直下に位置している。台場に伴う附属施設の種類や位置については明確ではないが、水戸藩の海防施設に伴う諸施設を参照すれば、藩士が詰めた役家や武器を保管した土蔵などの建物の埋没も予想された。

開発区域 東西32.33m、南北28.96mの略正方形を呈し、西側に長さ約23.61m、幅約4mの進入路が付帯する。面積は、925.61㎡である。かつては、敷地の北西側に加藤病院の分院があり、現況も北西側のみ樹木は無く建物解体時の状態を保っている。地表面の標高は17.4m前後で、概ね平坦である。

計画では、北側中央に東西軸の建物1棟(東西約10.47m、南北約7.28m)、その北西側に5人槽の合併浄化槽1基(東西長約1.90m、南北幅約1.13m)を配置する。他



第10図 祝町向洲台場跡内開発区域図



第11図 開発区域内調査区位置図



写真9 調査区全景(西から撮影)

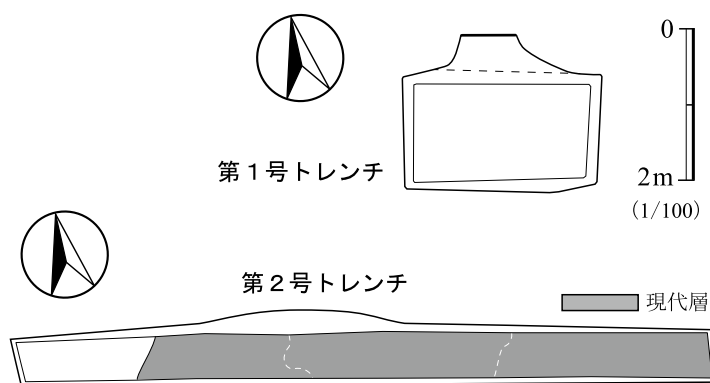
に住宅の周りには80cm角の雨水浸透
枳5基の設置も計画されている。

建築時の基準であるKBM（井戸跡
の蓋の天板）は、標高約17.746mで、
設計GLは地表に合わせた25cm低い
17.196mである。建物については、
ベタ基礎で、最深部は設計GL-30cm
に達するから、標高約17.196mとな
り、遺構があった場合の保護層30cm
の底面は、標高約16.896mとなる。
合併浄化槽については、本体だけで
設計GLから深さ約1.57mあり標高は
約15.93mに達する。

調査区域 試掘調査は、平成29年11
月28日～12月5日間の4日間、実
施した。浄化槽、及び建物の範囲を
対象に、調査区2本（第1・2号ト
レンチ）を設定して、重機を使用し
て調査に当たった。調査面積は、約
11.06㎡である。

第1号トレンチ 浄化槽の範囲と重
なるように設定した。平面形態は東
西約2.6m×南北約1.6mの長方形で、
面積は約4.16㎡である。表土から
1.25m前後の深さまで現代の山砂が
堆積しており、配管が見られたこと
から元々埋設されていた浄化槽の抜
き取り痕とも考えられた。それ以下
の確認面は、礫を含む砂層であり、
ローム下の地山に達しているものと
みられる。遺構・遺物はまったく検
出できなかった。

第2号トレンチ 建物と重なる位置
に、台場の肩壁と直交するように東



第12図 第1・2号トレンチ平面図



写真10 第1号トレンチ全景（東から撮影）



写真11 第2号トレンチ全景（西から撮影）

西軸で設定した。東西長約9.2m×幅約0.75m、面積約6.9㎡の規模を持つ。西端部から地山の褐色粘質ロームを検出したが、トレンチ内のほとんどは加藤病院解体時の基礎の抜き取り痕など、現代層のみが確認でき、台場に沿う遺構や遺物は未検出に終わった。この範囲は病院の建物と重なり、その影響が及んでいるものとみられる。地山の標高は、約17.058～17.204mである。

取 扱 試掘調査の結果、遺存状態が悪く、遺構は未検出に終わった。

以上の結果を、平成29年12月7日付「埋蔵文化財取扱いに関する意見書」として取りまとめ、茨城県教育庁総務企画部文化課長に提出したところ、同年同月13日付文2431号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により、慎重工事と判断された。

第5章 千天遺跡第3次調査

調査経緯 県道16号の主要地方道大洗友部線に面する成田町字大道三番470番7が該当し、周知の埋蔵文化財包蔵地、千天遺跡の範囲内である。個人住宅の新築工事が計画されたため、文化財保護法第93条第1項の規定に従い、平成30年1月17日付で、茨城県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。

平成24年度の（公財）茨城県教育財団による千天遺跡第2次発掘調査により、対向する県道上からは松川陣屋跡と夏海宿とを東西に結ぶ中近世の道路跡の北縁を検出しており、今回の調査に伴って、同様の遺構が検出される可能性があった。

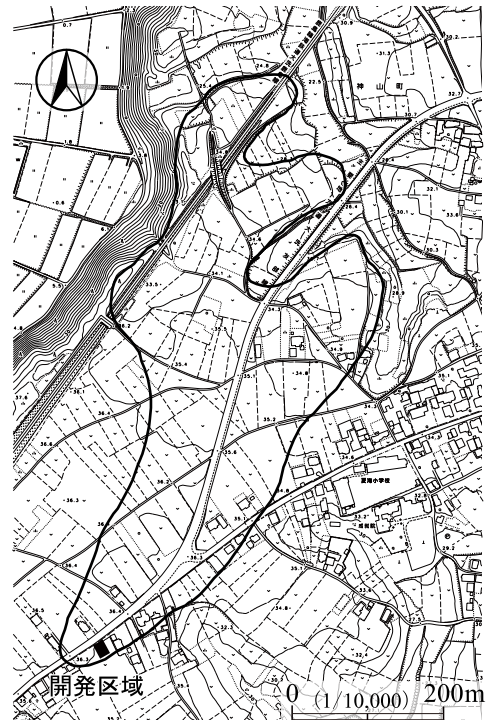
開発区域 千天遺跡の南端に位置する。元々は、畑地であった。東西幅約15.0m×南北の奥行きが18.99～21.0mの略長方形を呈する。面積は、302.54㎡である。

標高約36.75mの県道の路肩よりも畑地面は標高約36.22～36.35mと約40～53cm低く、段差が生じていた。さらに畑地は北から南に向けて標高が下がり、南北間で35cm程度の比高もあった。平成29年12月中旬には、これら段差を解消するべく、敷地全体を擁壁で囲み、路肩に比べ約6cm高い標高約36.81cmの地盤を形成した。

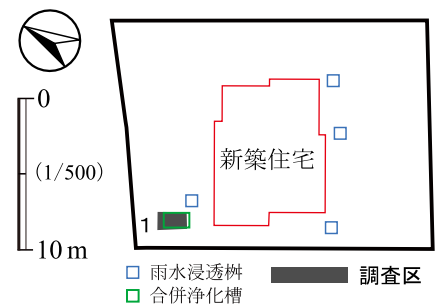
計画では、敷地の中央に東西軸の建物1棟（東西約9.56m×南北約7.28m）を建設し、その西側に5人槽の合併浄化槽1基（南北長約1.59m×東西約0.87m）を、住宅の周りには80cm角の雨水浸透枳4基を配置する。

道路側土留天端を利用した建築時の基準であるKBMは標高36.75mで、設計GLの標高は盛土した現況地盤の36.81mである。建物はベタ基礎で、最深部は設計GL-35cmの標高36.46mであり、遺構が埋没した場合の保護層30cmの底面は標高36.16mとなる。1基の合併浄化槽については、本体だけで設計GL-1.52mまで埋設するため、標高35.29mに達する。4基の雨水浸透枍は、周辺の碎石層と最深部のフィルター層も含めると、設計GL-1.05mの標高35.76mまで掘削する。

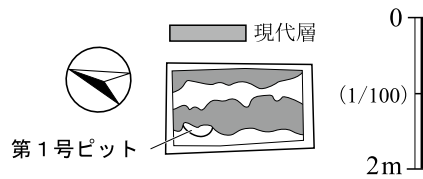
調査区域 試掘調査は、平成30年1月29日・2月1日の二日間、実施した。建物・浄化槽・雨水浸透枍が試掘調査対象になるが、浄化槽を対象とした調査区1本（第1号トレンチ）を除いて実施して



第13図 千天遺跡内開発区域図



第14図 開発区域内調査区位置図



第15図 第1号トレンチ平面図

いない。建物については、元々の畑地上面の高度がKBM-64～71cmの標高36.04～36.11mであり、保護層底面の標高36.16mよりも深いため、遺構が埋没しても影響は無いものと判断される。雨水浸透枳は、最深部で標高35.76mに達するものの、掘削範囲が80×80cmと狭小地であるため調査区の設定は見送った。

第1号トレンチ 浄化槽の範囲と重なるように設定した。平面規模は、東西約1.15m×南北約1.9mの長方形で、面積は約2.19㎡である。盛土上面から確認面の関東ローム層上面までの深さは約86～88cmで、その間には3層の堆積層（第1～3層）がみられる。

第1層：厚さ約30cmの水平に堆積した黄褐色の山砂層。

第2層：厚さ約20cmのガラやビニールゴミなどを含む硬化した暗褐色土層。

第3層：厚さ約40cm弱の農業用ビニールゴミなどを含む硬化した暗褐色土層。本層の一部は、確認面に重機による爪痕（平面図の現代層）を残している。下面は漸移層を挟まず直接、地山の関東ローム層に面している。開発担当者によれば、旧来は高低差を持つ畑地であったというから、平成29年12月の擁壁・盛土工事に伴い、北高南低の起伏をならした可能性を予測しておきたい。

確認面の標高35.906mの高さからは、ピット1基（第1号ピット）を検出した。現存する最大規模は、西側の39cmほどであるが、ほとんどは第3層堆積時の重機掘削により破壊を受けてしまっている。破壊を受けた竪穴建物の柱穴などとも考えられるが、包含遺物は出土しておらず、性格、時期とも明確ではない。



写真12 調査区全景（北西から撮影）



写真13 第1号トレンチ全景（東から撮影）

攪乱を受けた第3層中からは、3片の土器類が出土しており、内訳は弥生土器片1、土師器甕片1、土師器片1である。

出土遺物 01は後期弥生土器の口頸部細片である。上部に5条もしくはそれ以上

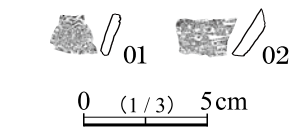
の櫛描文を描き、下部は器表が剥離しており明確ではない。02は土師器甕の胴下部細片である。胎土には角張った石英・長石粒が目立ち、白雲母片も含まれる。外面は横方向（➡）のケズリを入れ、内面はヘラナデを横方向に施す。

取 扱 試掘調査の結果、確認面の遺存状態が悪く、浄化槽位置から検出した第1号ピットも帰属する時代時期は不明であった。

以上の結果を、平成30年2月2日付「埋蔵文化財取扱いに関する意見書」として取りまとめ、茨城県教育庁総務企画部文化課長に提出したところ、同年同月26日付文3019号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により、合併浄化槽の埋設に際しては、確認調査の実施、雨水浸透枳設置に際しては工事立会、建物の基礎工事などのその他の工事は慎重工事と判断された。

これを受け、平成30年6月5日の合併浄化槽の埋設工事に伴い、第1号ピットの覆土の掘り込みを伴う確認調査を実施したが、結局、時代時期を判別できる資料は未検出に終り、時期不明であったため、そのまま浄化槽の埋設工事を進めた。

また、平成30年7月3日の雨水浸透枳の設置工事にも立ち会ったが、上層の山砂層の下位は黒褐色の攪乱層か、地山の関東ローム層が堆積しており、遺構はまったく認められなかった。



第16図 第1号トレンチ出土遺物図



写真14 第1号トレンチ出土遺物



写真15 第1号ピット完掘状態（南東から撮影）

引用・出典・参考文献

- 佐々木義則 1992 「坏Cの製作技法について」『武田Ⅴ』（財）勝田市文化・スポーツ振興公社文化振興課文化財調査係 85-94頁
- 佐々木義則 1997 「木葉下窯跡群の須恵器生産－奈良時代前半を中心に－」『婆良岐考古 第19号』婆良岐考古同人会 50-80頁
- 佐々木義則 1998 「常陸におけるロクロ成形土師器坏の展開」『婆良岐考古 第20号』婆良岐考古同人会 43-60頁
- 佐々木義則 2000 「武田石高遺跡における土師器甕の変遷」『武田石高遺跡 奈良・平安時代編』（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 251-264頁
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 井上義安・蓼沼香未由 2001 『登城遺跡』大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 佐々木義則 2013 「木葉下窯跡群産須恵器有台坏・有台坏蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古 第35号』婆良岐考古同人会 52-72頁
- 蓼沼香未由 2018 『平成26(2014)年度大洗町内遺跡調査報告書』大洗町教育委員会
- 蓼沼香未由・斎藤 洋 2018 『四反遺跡』大洗町教育委員会・大洗町都市建設課・株式会社地域文化財研究所
- 早川麗司編 2018 『へろ内遺跡』東京ガス株式会社茨城幹線建設事務所・清水建設株式会社・大洗町教育委員会・有限会社毛野考古学研究所
- 蓼沼香未由 2021 『平成27(2015)年度大洗町内遺跡調査報告書』大洗町教育委員会
- 大洗町教育委員会 2023 「第2章磯浜古墳群の概要 3. 取り巻く歴史的環境 3-3. 磯浜古墳群と周辺の史跡」『史跡磯浜古墳群保存活用計画』49-56頁

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうきゅう(にせんじゅうな)ねんどおおあらいちょうないいせきしょうさほうこくしょ
書名	平成29(2017)年度大洗町内遺跡調査報告書
シリーズ名	大洗町文化財調査報告書
シリーズ番号	第28集
編著者名	蓼沼香未由
編集・発行機関	大洗町教育委員会
所在地	茨城県東茨城郡大洗町磯浜町6881-88
発行年月日	2024(令和6)年3月29日

ふりがな 遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
ひいがま 髭釜遺跡	ひがしいばらきぐんおおあらいまちさくらみち 東茨城郡大洗町桜道 186 番	309	022	36°31'69"	140°56'58"	2017. 11. 16 ～ 11. 24	14. 2	幼稚園分園舎新築
ひいがま 髭釜遺跡	ひがしいばらきぐんおおあらいまちいそはまちょう 東茨城郡大洗町磯浜町 1313 番 1	309	022	36°31'33"	140°56'63"	2017. 11. 28 ～ 12. 4	11. 2	個人住宅新築
いわいまちむこうずだいはあと 祝町向洲台場跡	ひがしいばらきぐんおおあらいまちいそはまちょう 東茨城郡大洗町磯浜町 8179 番 15 外 2 筆	309	096	36°33'28"	140°59'23"	2017. 11. 28 ～ 12. 5	11. 1	個人住宅新築
ちてん 千天遺跡	ひがしいばらきぐんおおあらいまちなりたちょう 東茨城郡大洗町成田町 470 番 7	309	051	36°28'45"	140°54'71"	2018. 1. 29 ～ 2. 1	2. 2	個人住宅新築

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
髭釜遺跡	集落跡	古代	竪穴建物跡 3・溝跡 1・ピット 2	土師器坏・甕、須恵器盤	—
髭釜遺跡	集落跡	古代	ピット 2	須恵器有台坏	—
祝町向洲台場跡	台場跡	—	—	—	—
千天遺跡	集落跡	弥生・古代	ピット 1	弥生後期土器、土師器甕	—

大洗町文化財調査報告書 第 28 集
平成 29(2017) 年度
大洗町内遺跡調査報告書
2024(令和6) 年3月22日印刷
2024(令和6) 年3月29日発行
編集・発行 大洗町教育委員会
〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町6881-88
TEL 029-267-0230
印刷 岩城印刷株式会社
〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町2426-1
TEL 029-267-5255